

善通寺市立中央小学校

本校では、相手の立場に立って考え、行動できる児童の育成を目ざして、自浄力や自治能力をもった子どもたちを育成する活動に取り組んでいます。

実践事例（関連項目：教育活動プラン④ー1 ④ー2）

仲間とともによい行動ができる子どもを育てる

目的

友だちとのかかわりを大切にしようとする子どもたちの集団意識を、よりよい方向に導いていきます。

内容

● 教師の構え

子どもたちが活動に主体的に取り組めるよう、やる気に寄り添い支援をします。活動に価値付けをしたり、見通しをもたせたりしながら、よりよい考え方や行動が、進んでできる子ども集団を育てます。

● 縦割り活動

異年齢の人間関係をはぐくみ、リーダーとしての自覚や責任、上級生への憧れや感謝の気持ち等を育てています。毎日の清掃や、週1回の集団遊びの企画・運営に加え、年1回の縦割り遠足では、子どもたちが行き先や活動プログラム等を話し合っています。



【積極的に話し合う代表委員会】



- 1年—バスの中のクイズ
- 2年—歌づくり
- 3年—バッジづくり
- 4年—旗づくり
- 5年—写真、遊び
- 6年—遠足のしおりづくり

【学年が役割分担する縦割り遠足】

成果

活動に目的意識をもち、他の学年のことも意識しながら活動できるようになってきました。達成感や自己有用感をもつ子どもが増え、集団として安定に向かっています。

教職員が連携しながら子どもに寄り添う

目的

その子の困り感や、抱えている問題を多面的に理解し、有効な方策を協議して、一貫した指導を行っていきます。

内容

● 児童理解の推進

配慮や支援の必要な子どもへの理解と対応について、全教職員で研修を続けています。また、気になる子の情報交換も定期的に行い、問題の共通理解といろいろな立場からのかわりに努めています。

● 子どもに寄り添った支援

まわりへの配慮ができず自分の主張のみを強くする子、集団に入ろうとしない子、学級内の人間関係になじめない子など、様々なタイプの子どもの気持ちを理解する努力をしながら、右図に示すような適切な支援を探っていきます。

成果

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも相談し、支援の方策を見出していくことによって、子どもや保護者との信頼関係を基盤とした継続した指導ができるようになり、問題解決に向かう事例が増えてきています。

◆ 本校におけるその他の取組

- リーダー合宿（6年生）
- 豊かな体験活動（5年生）
- デイキャンプ（4年生）

まわりへの配慮ができず、自分の主張のみを強くする子



よくない行動を抑えるより、よい行動を教えて、できるようになったことを称賛する。

集団に入ろうとしない子



その子の物事の感じ方や思いの表し方の特徴を受け入れ、スモールステップで、できることを増やしていく。

学級内の人間関係になじめない子



教育相談等で、個別のかかわりを増やししながら、コミュニケーションのスキルを段階的に学習していく。



【民泊して心を通い合わせた豊かな体験活動】